

河川底質中の重金属について

宮城 俊彦 城間 勇 池間 修宏
大見謝辰男 下地 邦輝

Heavy Metals in River Sediments
Toshihiko MIYAGI, Isamu SHIROMA,
Nobuhiro IKEMA, Tatsuo OMIJA and
Kuniki SHIMOJI

I はじめに

水質汚濁防止法第16条の規定に基づき「測定計画」が作成され、公共用水域の環境水質監視測定調査、及び底質調査が実施されている。

底質については、昭和61年度及び62年度で延べ162地点で調査が行われたが、その内92地点の分析を当研究所で担当した(PCBのみの分析地点を含む)。

II 調査方法

昭和50年10月28日付け環水管第120号の「底質調査方法」に従った。試料の調製について、砂状の試料は9メッシュ(2mmふるい目)ふるいで小石等を除去し、静置後上澄み液を除いた物を分析試料とした。

III 調査結果

昭和61年度及び62年度の河川底質の重金属の分析結果は表1及び表2のとおりである。また、6価クロムを除く4元素間の相関係数は表3のとおりである。

1. 6価クロムは全地点で検出されていない。
2. カドミウム、鉛については、2ヶ年とも7-1の地点が最高値であり、他地点と比べて一桁高い値である。
3. カドミウム-鉛の間に高い相関があり、底質中の挙動が似ていることが推測される。

表3 元素間の相関係数

	Pb	As	T-Hg
Cd	0.753	0.274	0.257
	Pb	0.153	0.478
		As	0.371